

スマート産業人材育成支援事業(生産性向上分野)

「スマートファクトリー導入実践セミナー」

～スマートファクトリーのねらいと実践事例のご紹介～

スマートファクトリーとは、ドイツ政府が提唱するインダストリー4.0を具現化した先進的な工場のことです。センサーや設備を含めた工場内のあらゆる機器をインターネットに接続した上で、品質・状態などの情報を見える化し、情報間の因果関係を明らかにして、設備間、設備と人が協調して動作することで実現されます。

この度、静岡理工科大学准教授の加藤丈和様、有限会社京北商会の山口展稔様、エナジーシェアの白崎恭三様から、スマートファクトリーのねらいと実践についてご紹介いただきます。

本セミナーが、IoTを活用したものづくり改革により、収益改善や新たな雇用創出に繋がる一助となることを期待します。

主 催：(一社)京都知恵産業創造の森、(公財)京都産業21、京都府、
京都の未来を拓く次世代産業人材活躍プロジェクト推進協議会

共 催：(一社)京都経営者協会

開催要領

日時 2020年 10月23日 (金) 14:00 ～ 16:50

申込締切：2020年 10月16日 (金)

会場 京都経済センター 3階 3-H会議室
(京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78)

定員 20名 (先着順) (参加費無料)

対象 スマートファクトリーの導入に興味のある中小企業等の方

プログラム

13:40～ 受付開始
14:00～14:05 主催者からの挨拶

14:05～15:15 **講演1 「中小工場のスマート化の意義と効果」**
静岡理工科大学 電気電子工学科 准教授
加藤 丈和 様

15:15～15:30 休憩
15:30～16:30 **講演2 「スマートファクトリー導入の実践事例の紹介」**
MFCAとFEMSの統合モデルの実践とその効果
有限会社京北商会 代表取締役 山口 展稔 様
エナジーシェア 代表 白崎 恭三 様

16:30～16:50 事務局からのお願い

講師プロフィール

加藤 丈和（かとう たけかず）氏 静岡理科大学 准教授 博士（工学）

平成13年4月から平成14年12月 独立行政法人産業技術総合研究所 特別研究員

平成15年から平成20年9月 和歌山大学システム工学部 助手・講師

平成25年から平成28年8月 京都大学大学院情報学研究科 エネルギーの情報化共同研究講座
特定准教授

平成28年9月より現職

山口 展穂（やまぐちのぶとし）氏 有限会社 京北商会 代表取締役社長

2014年（平成26年）先代山口義晃氏の事業を引き継ぎ代表取締役に就任。

2015年（平成27年）自社工場にファクトリーエネルギーマネジメントシステムを導入。

現在、京都木材協同組合流通委員会副委員長に就任。

白崎 恭三（しらすき きょうぞう）氏 エナジーシェア 代表

1982年（昭和57年）日本電気株式会社に入社、企業・電力事業者向け I Tシステムの導入に携わる。スマートメータープロジェクトを推進。2015年（平成27年）京都大学産学連携コンソーシアム「エネルギーの情報化ワーキング」に参加。現在、エナジーシェアを起業し E M S の普及を促進。

用語の説明

MFCA（Material Flow Cost Accounting）マテリアルフローコスト会計

製造プロセスにおける資源やエネルギーロスに着目して、そのロスに投入した材料費、加工費、設備の減価償却費などを「負の製品に掛かるコスト」として総合的にコスト評価を行う原価計算、分析の手法。MFCAを使って分析、検討されるコストダウン課題は、省資源や省エネにも繋がっていく。

FEMS（Factory Energy Management System）工場のエネルギーマネジメントシステム

工場全体のエネルギー消費を削減するため、受配電設備のエネルギー管理や生産設備のエネルギー使用・稼働状況を把握し、見える化や各種機器を制御するためのシステム。エネルギー使用量を監視し、ピーク電力の調整や状況に応じた空調、照明、生産ライン等の運転制御等を行う。

申込方法

以下のURLから申込ください。

https://chiemori.jp/smart/ai_ilot20201023entryform



問合せ先

一般社団法人 京都知恵産業創造の森 スマート社会推進部

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78

Tel : 075-353-2303

e-mail: smart@chiemori.jp

本事業は、京都府が厚生労働省の「地域活性化雇用創造プロジェクト」の採択を受けて、京都府・京都市をはじめとする産学公・公労使の「オール京都」体制で実施する「京都の未来を拓く次世代産業人材活躍プロジェクト」の一環として取り組むものです。